

出雲の治水の偉業を韓国へ

韓国国内で発行部数第四位の全国紙「国民日報」の記者が二十一日に来県、二十八日まで滞在し、大槻七兵衛、清原太兵衛、周藤弥兵衛の「出雲三兵衛」についての取材活動を行っている。

「出雲三兵衛」を韓国の新聞記者が取材



島根を訪れた記者は、同紙が別冊で発行している「イウツ」(隣の意味)セクションの部長をしている全正熙氏。全氏は、財団法人人間自然科学研究所(小松昭夫理事長)が発行している「漫画『治水の

米田センター長に大槻七兵衛についての説明を受ける国民日報記者。24日、出雲市大社町北荒木、荒木コミュニティセンターで

偉人』出雲三兵衛」シリーズの「周藤彌兵衛」、「大槻七兵衛」、「清原太兵衛」の韓国語版を読み感銘を受け、「イウツ」での特集を起案。それぞれのゆかりの土地や人物についての取材活動を進めている。

二十四日には出雲市大社町北荒木の荒木コミュニティセンターを訪れ、米田拓朗センター長から荒木地域における大槻七兵衛の事業に関する説明・解説を受けた。

取材にあたり、全さんは、「今、韓国では、政府が四大河川再生事業を推し進めており、治水に関する関心が高

まっている。そうした中で、島根で治水に一生をかけた人々たちを取材する機会を持てたことがうれしい。出雲三兵衛の偉業を、多くの人たちに伝えていければ」と話した。

「出雲三兵衛シリーズ」の韓国語版を手掛け、今回の取材に同行している金顯哲氏(同研究所理事)は、「出雲三兵衛のような素晴らしい方々は、世界にもなかなかいない。韓国でも特に次の世代を担う子どもたちに、彼らの偉業を知ってもらいたい」と期待を寄せた。

なお、「出雲三兵衛」についての特集は「イウツ」で計三回にわたって掲載される予定(時期は未定)。